

平成29年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 センター会場

第1回社会教育編「家庭教育」

平成29年8月9日(水) 会場名:青森県総合社会教育センター 第2教材開発室 受講者数31名

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 センター会場 第1回社会教育編「家庭教育」を実施しました。

社会教育編では、【家庭教育】・【青少年教育】・【地域活動】の分野に分けて研修講座を構成しており、第1回目は、「地域の子どもへの接し方」をテーマに行いました。

講師に、弘前大学大学院 医学研究科附属 子どものこころ発達研究センター 特任准教授 栗林 理人 氏をお招きし、「子どもの心の発達について」の専門的視点で御講義いただきました。

学校・家庭・地域の連携において、子どもとの関わりは不可欠であり、地域の子どもの“よりよいつながり”を様々な事業展開に生かすためにも、『子どもを知ること』を最も重要視しなければならないというコンセプトで今回の研修講座を設定しました。

栗林氏の講義からは、学校・家庭・地域の社会が目指すべき姿として、「一人一人の人間が大事にされること」が重要であり、個の特性、集団や環境の特性を理解し、どう向き合いどう支援するかを学ばせていただきました。

午後の演習では、当センターで制作している『家庭教育支援動画』を使い、視聴後に幾つかの質問に対し、グループで話し合ったり、“気になる子”を実際に地域のイベントに参加させるときの配慮事項を考えたりする実践的グループワークを行いました。

講義も演習も、受講者のみなさんが切実なものとして捉えていることが、講義に聞き入る様子やグループワークで話す内容からもうかがい知ることができ、そのヒントとなる有意義な研修講座となりました

1. 講義：「子ども心の発達について」～その理解と接し方～ 講師：栗林 理人 氏

講義では、いわゆる“気になる子”について理解を深め、その接し方を学ぶものでした。「箱庭療法」を事例とし、“遊び”を通して症状が回復していったことから、接する側も“遊び心”が必要で、その「自由を保障」してあげること、加えて自由の中に「秩序」を大事にすること、さらに「精神性発達」を理解することで、“子どもの環境を整える”重要性についてお話されました。その他の事例からも共通して、『個』と『環境』の意識と、『安定』がお互いの信頼を深め、良好な関係を築けるという内容でした。

《 講義の様子 》



【概要】

- 「一人一人の人間が大事にされる」…… ・個の特性の理解 ・集団や環境の特性理解
⇒ 根本的な課題 ・子どもたちとどう向き合うのか ・子どもたちの発達をどう支援するか
- 「見立て・アセスメント」も重要

2. 演習：「子どもの接し方」 担当：県総合社会教育センター職員

午前中の栗林氏の講義を踏まえつつ、午後は「家庭教育支援動画」の中から、2つのコンテンツを取り上げて演習しました。

1つ目の演習では、DVDを視聴した後、「運営者としてどんなことを考えたか？」や「参加者の立場ならどう感じたか？」などの質問に対し、グループでフリートークをしました。その後、“幼い子どもたちを含む住民対象の夏イベント”を話し合い、発表し合いました。

2つ目の演習は発達障害の子に関係したDVDを視聴し、感想を述べ合った後、「“発達障害の子”もしくはその“保護者”から、自分が担当する事業等に『参加したい（させたい）』という申し出があったら、どう対応するか？」という問い掛けに対し、グループディスカッションしました。その後、全ての子どもたちへの配慮事項を重視して、1つ目で作った計画をさらに充実した内容に作り上げる演習をしました。

《 演習の様子 》



3. 受講者の感想

- “環境を整えてあげると、子どもたちは自分で変わっていきける”というお話があり、私たちの関わり方が大切なのだなあと思いました。演習では、発達障害の子が活かされる企画を真剣に考えました。
- 不登校の子など、“遊ぶ力”が自力で回復する力にもなるということを知った。
- 講義は、大変詳しく、また事例等でわかりやすくお話いただきとても勉強になりました。「個と環境」についても、環境で回復・改善していくということだったので対応を工夫していきたいと思います。
- 自分の子育て時代にはほとんど考えたり気付かなかったりしたことを改めて振り返り、地域の子どもたちと接する時には気をつけていきたいと思います。
- たくさんの事例をもとに、子どもや大人のこころの問題がわかりました。これからは、少しずつでも改善に向けての行動をしていきたいです。